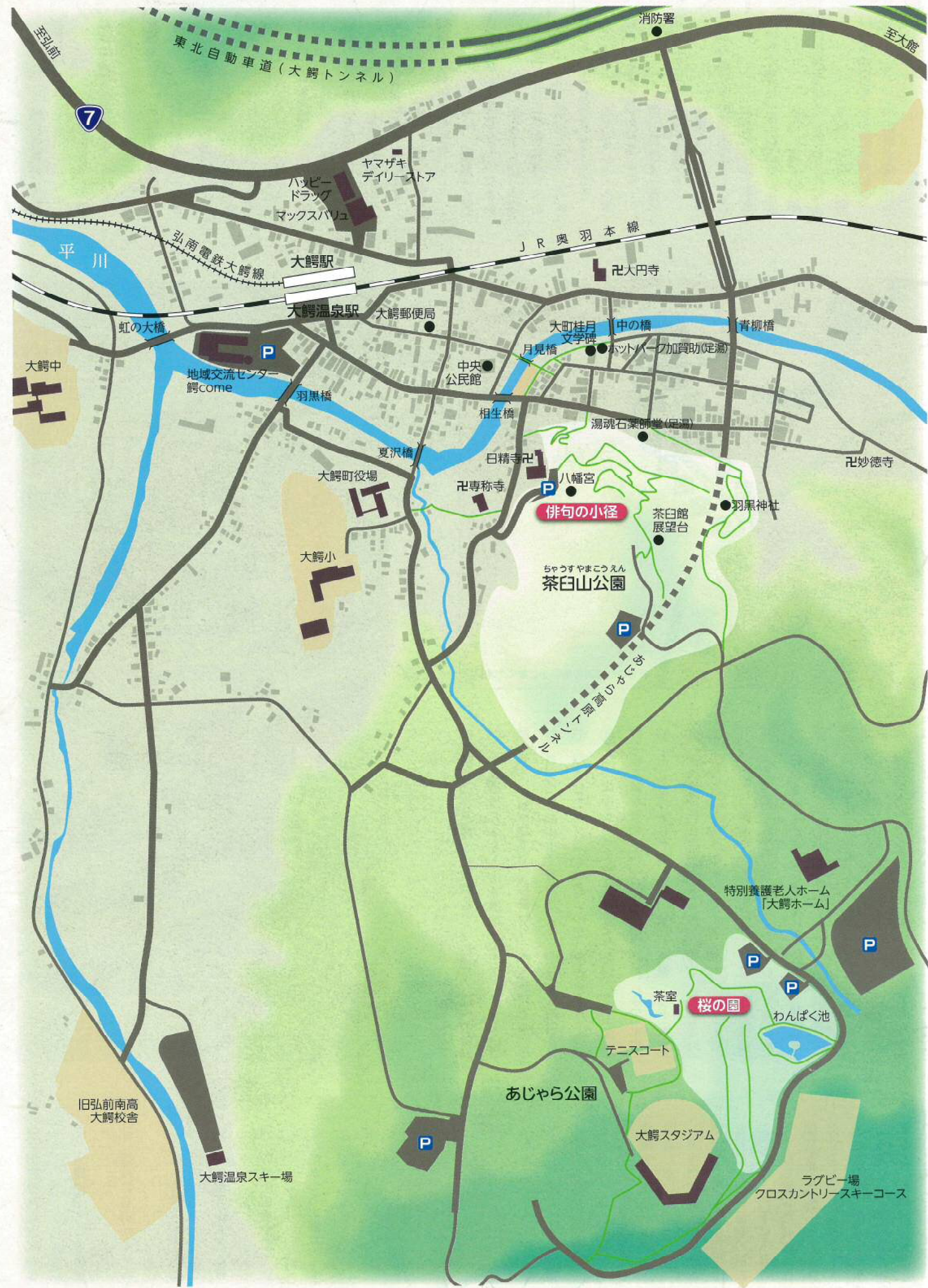


茶臼山公園



「茶臼山公園」を美しく彩るつつじは昭和四十一年、大鰐中学校の生徒が入学記念につつじを植樹したことに始まります。その後、毎年植樹が続けられ、今では四十数種、総数約一万五千本以上を数えるつつじの名所となっています。また茶臼山公園には、三百種類を超える植物が生息しており、わずか三十分足らずでこれらの品種を観察できます。

お問い合わせは 大鰐町役場企画観光課 ☎0172-48-2111(代)

- 1 山の湯や夕鷺のいつまでも 増田手古奈(大鰐)
- 2 手古奈母お萩に新茶添えたはず 高浜 虚子(鎌倉)
- 1 元日や心足る日の多かれと 長内ミキ女(大鰐)
- 2 大いなる湯舟に一人初湯かな 小山内昭女(大鰐)
- 3 ネプタ牽く子に添ひ彼も子煩悩 今谷 清助(弘前)
- 4 風花の木の間にぐれにただよひぬ 安田ただし(弘前)
- 5 福寿草まばゆきまでに金色に 菊池 悠史(大鰐)
- 6 やはらかきやはらかき日よ花ひらく 畑山 稲月(大鰐)
- 7 天の川十和田の湖にかりたる 虎谷 嘯月(大鰐)
- 8 津軽不二容子正して秋晴るる 黒沼 草生(弘前)
- 9 暮れてなほ蝶たよへる額の花 三浦 文郎(弘前)
- 9 湯の町を見おろし佇てる花野かな 〃 恵子(〃)
- 10 林の実をみあぐれば雲流れゆく 工藤 京子(弘前)
- 11 赤き実はがまずみらしと立ち止る 花田 道子(弘前)
- 12 わけ入るや邯鄲の鳴く芒原 福士 久太(弘前)
- 12 草刈って吟行のみちつけてあり 〃 みさ女(〃)
- 13 秋天にリフトの人ら吸はれゆく 三上きくを(弘前)
- 14 少年に五月の風と光とを 長内 禎孝(大鰐)
- 14 フラココの時々見ゆる新樹かな 〃 幸子(〃)
- 15 よく遊ぶ山家の子らに鷹舞へり 佐藤 静良(弘前)
- 16 蕨豆の莢おちて雪窪みをり 漆谷 鉄蔵(弘前)
- 17 花りんご番屋とぎしてありにけり 秋田谷秋月(大鰐)
- 18 向きかへて流る、鷹の尾かぢかな 後藤山狂子(大鰐)
- 19 雪笹の大群落の涼しさよ 吉田 紅一(弘前)
- 20 菊称ふ一花一花に歩を停む 長谷川岬人木(弘前)
- 21 美しき夏山にして雨そ、ぐ 神 九六(弘前)
- 21 高原の何処へ行くも虫しぐれ 〃 照代(〃)
- 22 この山に郭公の鳴くやいつまでも 塚本 峰石(大鰐)
- 23 高原の月に句帖を照らしゆく 工藤 尚義(弘前)
- 24 山の湯や夏蝶が来る風が来る 盛 咲子(弘前)
- 25 雲間より刈田に日射美しく 平 盛運(大鰐)
- 26 茂りとはかく美しきものなるか 増田手古奈(大鰐)
- 27 美しきつつしにひかれ登り来し 増田 勢子(大鰐)
- 28 朝もやの郭公鳴きしこの道を 増田よしみ(大鰐)
- 29 仰ぎ見る千丈幕の紅葉かな 榎 耳挿子(大鰐)
- 30 新雪の岩木嶺はるか林檎もぐ 油川 一石(大鰐)
- 31 温泉の窓に冬山見えて冬となる 下沢木鉢郎(東京)
- 32 河鹿鳴く瀬に温泉の宿の灯が流れ 油川 研子(大鰐)
- 33 師の句碑を訪へば風あり朴匂ふ 板垣 里庵(大鰐)
- 34 白鳥を眺め菜しく湯浴みかな 小田桐木堂(弘前)



俳句の小径

- 61 高原に夫と憩ふて秋深し 滝本 はつ(大鰐)
- 62 山萩のほろ／＼こぼる散策径 山本 キセ(大鰐)
- 63 大空に岩木嶺ありて種蒔けり 小田桐耕雲(弘前)
- 64 炎天に神の牛曳く丑湯祭 栗林忠右エ門(平賀)
- 65 慎ましく物言ふ人や茄子の花 虎谷 萩月(大鰐)
- 66 ほのぼのと夕べに白し花りんご 藤田 豊子(弘前)
- 67 そこはかとかりんの花の匂ふ庭 井筒 まつ(平賀)
- 68 人ごえのありて緑蔭深かりし 後藤 純子(平賀)
- 69 山粧ふ津軽が好きでひとり住む 深畑 祥子(青森)
- 69 峰流る雲の高さや秋の空 下山 るり(大鰐)
- 70 そぞろゆく散りし花を惜しみつ、三浦 とす(弘前)
- 70 こもまたよき日溜まりや路のとう 一戸 つね(弘前)
- 71 白鳥を眼もて追ひいま心にて 佐藤 一村(弘前)
- 72 花野より花野につづく橋渡る 藤井 里子(弘前)
- 72 ほの／＼と卵の花匂ふ山路かな 矢田やゑ女(弘前)
- 72 茶白山ぎふ蝶とぶ日近からん 大黒 千代(弘前)
- 73 春山にもほぐれ行く音を聞く 増田 善昭(千葉)
- 74 津軽にも夏来たりけり花りんご 楠美 春洋(青森)

- 35 車窓より見し秋草の思うこと 鎮目水松子(大鰐)
- 35 馬追ひに砧打つ手をとゞめけり 〃 竹亭(〃)
- 35 岩木山はるかに見えてさはやかに 木田 杜雪(〃)
- 35 まるめるの熟れみちのくの秋深し 〃 みちゑ(〃)
- 36 色鳥の来て美しき日となりぬ 古川 勝正(弘前)
- 37 千振の店出ならぶや秋まつり 今井 てる(弘前)
- 38 みちのくは綿入れほし、花りんご 成田 芳村(大鰐)
- 39 春雪を散らして鶴の木から木へ 中川みどり(弘前)
- 40 もやし場の湯煙白し初明かり 沢田 きえ(大鰐)
- 41 大いなる春の風や虚子祀る 外崎 喜代(弘前)
- 42 夫とある伴せ共に屠蘇祝ふ 佐藤千代子(大鰐)
- 43 この山の匂いすみれの小径かな 板田 初代(大鰐)
- 44 山吹や径は此処より急な坂 小田桐浩洋(弘前)
- 45 村の道子等のつくりしねぶた行く 藤田 一星(大鰐)
- 46 鳩笛を吹いて春待つ心はも 中村 鎮雄(弘前)
- 47 黒百合の咲く日月を吾も待つ 近藤 惇(青森)
- 48 みちのくに来て仲秋の月を待つ 宇津 信子(大鰐)
- 49 勤行の鐘聲かに夏の山 三浦 涼風(平賀)
- 50 大津軽野面は黄金／＼なり 大井 東洋(大鰐)
- 51 どの株もかたき苔のあやめかな 中野かつ子(大鰐)
- 52 黄蝶とぶ宵まちぐさのさく丘に 川村とも子(弘前)
- 53 時雨でもはれても山をふり返る 工藤乃里子(弘前)
- 54 山路や八重山吹のなだれ咲き 建部かほる(弘前)
- 55 大鰐に来てこの漆掻かばやと 畠山 若水(二所)
- 56 緑蔭に心引かる、石ありし 工藤 華車(二所)
- 57 な、かまど這松ぬけて実をもてる 小島 喜草(弘前)
- 58 紅葉濃き山ふところの温泉かな 野宮 新緑(弘前)
- 59 紅葉山越えて湯煙立つ宿に 長内ひさ子(大鰐)
- 60 いかづちの鳴りしよもせる種下し 長内萬吟子(大鰐)



増田手古奈 (1897~1993)

俳誌「十和田」の主宰者、増田手古奈(本名・義男)は、明治30年10月3日、南津軽郡蔵館村(現在・大鰐町蔵館)に生まれました。東京帝国大学医学部、同大学院を卒業後、昭和6年に医学博士となり、大鰐町に帰郷、医院を開業しました。

手古奈が俳句を始めるのは27才の頃。同大学の水原秋桜子、高野素十らと共に、現代俳句の巨匠といわれた「高浜虚子」門下に入り、数多くの秀作を残しました。25年には「手古奈句集」を発行。師の高浜虚子は、その序文で「手古奈君の句は、常に平常心を失はずして、少しも奇矯をたらふところが無い。私にはその平常心を失はぬところが最も好ましい」と記しています。